

日時：平成24年10月4日（木）18：30～20：30
場所：花川南コミュニティセンター 多目的ホール

【 当 日 の 内 容 】

18：30

◆ 開会

18：30～18：35

◆ 本日の進め方（事務局／株ドーコン）

- ・グループ別意見交換の進め方

18：35～18：45

◆ 避難行動の情報提供（事務局／株ドーコン）

- ・基本手順、災害種別の避難時の留意事項、避難所開設の現状の規定、避難行動に関わる資源・現状の確認

18：45～20：00

◆ グループ別意見交換

- ・第1回・第2回の意見交換結果の確認
- ・通常避難者の避難行動の確認
- ・避難所運営の留意点に関する意見交換
- ・要援護者の支援態勢に関する意見交換

20：05～20：30

◆ グループ別意見の発表

- ・各グループ代表者から発表

20：30

◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

Aグループ（4名）

- ・災害発生時には、自分の命は自分で守ることが基本。そのためには情報の共有が一番大切。
- ・まずは、町内会の各公園（会館と隣接）に集まって安全確保と状況確認。そこから、小学校などの避難所へみんなまで移動。
- ・移動途中にある防風林は倒木や落雷の危険がある。日頃から、災害時には利用しないよう徹底することが必要。
- ・避難所の運営は、各町内会の自主防災組織が協力して運営。小学校側も同様の班構成を検討し、協力して運営にあたれるとよい。
- ・町内会＝学校の連携、民生委員の協力などにより、要援護者の見守りや避難支援を含めた訓練を行うことが大切。
- ・人命第一で、100%は無理であっても、できることをできるだけ行いたい。



Bグループ（3名）

- ・避難ルートの課題として、大型店の看板、北斗高校グラウンドのフェンスの倒壊の危険が指摘された。
- ・避難所である樽川中学校に隣接する空地周辺は除雪されていないため、冬期の避難ルートとして利用できないことが懸念される。
- ・避難所の運営にあたっては、危機管理意識の共有が必要。学校側の防災担当者が誰なのか地域の方々にはわからない。また、学校に防災組織はあるが、教員間で情報が共有されていない。
- ・授業中（生徒がいる時間帯）の避難のあり方など、懸念は色々があるが、実際に訓練してみないと具体的な課題はわからないのではないか。
- ・町内会側も危機意識は人それぞれであり、一枚岩ではない。
- ・要援護者については、情報の開示の仕方に課題がある。



Cグループ（6名）

- ・避難ルートとして、防風林内に安全な通路があると良い。
- ・避難所（学校）を開設する役割がどうなっているか、地域で情報が共有されていない。
- ・避難所開設後に名簿作成することになるが、あらかじめ非常時に使えるよう避難所に名簿を置いておき、チェックリストとして使えるようにできないか。
- ・避難所の備蓄品に頼らず、まず自分で必要なものを持ってくるという意識づけが大切。一方で、学校側に何をどれだけ備蓄してあるか把握しておくことも必要。冬期は暖をとるためにも毛布が重要。
- ・避難開始するには情報が必要。訓練時にサイレンが鳴らなかったなどのトラブルもあった。スピーカーの設置や学校に設置されているスピーカーの拡充などを検討してはどうか。



Dグループ：（5名）

- ・川に囲まれている地域として、増水時に孤立する危険があるのではないか。
- ・避難所の指定がされているが、地域によっては、より近い方の避難所にいった方が良いのではないか。
- ・学校の先生は生徒の安全確保が第一。避難所に集まった際の指揮は誰がとるのか。
- ・病院は避難所と思われがちだが、入院患者などの対応もあり、避難所としては機能しないことを知ってもらうべき。
- ・要援護者の名簿を町内会長、民生委員だけが持っていて、いざという時に対応できない。



Eグループ：（6名）

- ・避難所がそもそも機能しないのではないか。地域にあまり知られていない。避難所となっている花川南中学校は屋上に上がれず、土日も閉まっている。また、生徒がいる時間帯に避難所として機能するのか。
- ・避難訓練を毎年行い、課題を確認していくことが必要。また、各町内会が連動して訓練することが重要。そのためには、市で音頭をとることも必要。
- ・災害の規模を想定しないと、必要な備蓄品の量を設定できないのではないか。
- ・地域に75歳以上の高齢者が300人もいる。どのように対応すべきかが課題。
- ・市からも避難所や備蓄に関する情報を開示して欲しい。どこに、何をどれだけ備蓄しているのか、避難所の収容人数は何人か。これらの情報をみながら、地域や個人で準備しなければならないものは何か検討できる。

